

池田草庵先生に学ぶ会・令和七年(二〇二五)九月

祭「姪盛」文(池田草庵著作集P249～p251)

祭「姪盛」文(一)

九月六日 (担当・良子、梅井、西村、藤原、宮崎)

維嘉永四年冬十二月二十日、叔父緝、嗚咽涕泣、謹告於亡姪

盛之靈、向者汝之病、吾憂焉、汝之死、吾哭焉、而終不若汝父之

哭、汝之哀也、

読み

維、嘉永四年冬十二月二十日、叔父緝、嗚咽涕泣、謹んで亡き姪盛の  
靈に告ぐ、向者、汝の病、吾憂うなり、汝の死、吾れ哭すなり、而し  
終いに汝の父の汝を哭するの哀しみに如かざるなり。

言葉

維コレ 次の言葉を指し示して強調する言葉

涕泣涙を流して泣く 向者キヨウシャ さきに。いつぞや

哭コクスル 泣く

不若…ハ…ニ し力ず」と読み、「ハ…に及ばない」「より…の方がよい」と訳す。

訳

維、嘉永四年冬十二月二十日、叔父の私、緯は、嗚咽涕泣、謹んで亡  
き姪盛の靈に告ぐ、先の(向者)汝の病、吾憂っていた。汝の死、吾  
れは泣いた。而し終いには、汝の父がおまえに泣く哀しみに比べられ  
るものではない。

古云兄弟之子猶子也、況乎我之於汝、幼而育之、長而教之、未嘗離吾側  
而汝之於我、爲我擇婦、爲吾築室、得以成吾之始終、其情誼之厚、  
読み

古に云う兄弟の子は猶お子のごとしなりと。況乎我の汝に於いておや、  
幼にして之を育し、長じて之を教え、未だ嘗って吾の側を離れず、  
而して汝の我に於けるは、我の為に婦を擇び、我の為に室を築く、以  
て吾の始終を成すを得たり。其情誼の厚し、

## 言葉

「況乎<sub>レ</sub>いわんヤ（いはんヤ）」「況<sub>レ</sub>乎」は、「いわんヤ（いはんヤ）<sub>レ</sub>ヲや」と読み、「まして<sub>レ</sub>はなおさらである」と訳す。

情誼<sub>ニ</sub>ジョウギ 親密なる間柄。よしみ

## 訳

昔から言っている、兄弟の子は自分の子どものようなものだ。まして、私とおまえとではである。幼い時は育ててやり、大きくなつてくると教えてやり、おまえは私のそばを離れたことはない。そして、おまえは私のために、妻を選んでくれ、私のために書院を建ててくれた。私の今までのすべてに助けてくれた。その思いは厚いものだ。

豈特尋常之爲<sub>ニ</sub>叔姪<sub>ニ</sub>者而已哉、則我之於汝、當不滅<sub>ニ</sub>於汝父、而方其死也、非不嘆惜痛哭也、而終不若<sub>ニ</sub>汝父之哀<sub>ニ</sub>也、

## 読み

豈特尋常の叔姪<sup>あにただしゆくてつ</sup>たるのみにならんや。

則ち我の汝に於ける、当に汝の父に滅ざらんや、而してまさに其死にあたるなり。嘆惜痛哭せずにあらざるなり。而れども、終には汝の父の哀しみには若かず。

## 言葉

「豈特<sub>レ</sub>」は、「あに たゞ<sub>レ</sub>ノミナランヤ」、「どうして<sub>レ</sub>だけに限ろうか、決して<sub>レ</sub>だけではない」。

嘆惜<sub>ニ</sub>たんせき 嘆き悲しむこと 痛哭<sub>ニ</sub>ツウコク 激しく泣き叫ぶ

## 訳

普通の叔父と姪という関係だけであろうか。則ち、おまえに対するは、おまえの父に劣るものではない。しかし、まさにその死だ。大変嘆き惜しみ、悲しまざるを得ない。しかし、お前の父の哀しみにはおよばない。

嗟乎幽冥之間、我乃有<sub>レ</sub>負<sub>ニ</sub>於汝<sub>ニ</sub>耶、既而又自解、蓋汝之生也、吾深愛焉、夫愛<sub>レ</sub>之之深、則望<sub>ニ</sub>之甚遠、望<sub>ニ</sub>之甚遠、則責<sub>ニ</sub>之必備、而汝終不<sub>レ</sub>能勝<sub>ニ</sub>我之苛切刻暴<sub>ニ</sub>、

## 読み

嗟乎幽冥の間、我乃ち汝に負うあらんや、

既而（すでにして）又自ら解す、蓋し汝の生なり、吾深く愛するかな、  
そもそも之を愛するの深ければ、則ち之を望むこと甚だ遠く、之を望  
むこと甚だ遠く、則ちこれを責めること必ず備わる、而るに汝終に我  
の苛切刻暴に勝つ能わず、

### 言葉

幽冥Ⅱユウメイ 死者の世界、あの世 冥土

負Ⅱオウ 負ける 背く 自解Ⅱ自分で理解し悟ること

蓋Ⅱケダシ 思うに 苛切Ⅱカセツ はなはだ厳しい

刻暴Ⅱコクボウ 残酷で乱暴

### 訳

ああ、あの世に行こうとしているその間、私はおまえに背くことがあ  
つただろうか。しばらくして、自分でわかつてきた。結局のところ、  
おまえの人生だ。私は深く愛した。そもそもこれを愛するのが、深か  
かったので、期待することも遠大で、責めることもあった。そして、  
おまえは私の非常に厳しいこの残酷な責めに勝つことはできなくなっ  
た。

是以平昔之所爲、時或不慊<sup>二</sup>乎我心、亦勢之所<sup>二</sup>必至、其已有<sup>二</sup>此意、則父子  
天然之性、遂爲<sup>二</sup>此意所<sup>二</sup>遮蔽<sup>二</sup>、

### 読み

是れを以って平昔の為す所、時に或いは我が心に慊<sup>あきたら</sup>ずか、

亦勢ひの必ず至る所、其れ已に此意に有り、則ち父子は天然の性、  
遂に此の意を為し、遮蔽するところ、

### 言葉

平昔Ⅱヘイセキ 昔から 慊Ⅱケン あきたりる 遮蔽Ⅱシヤヘイ

さえぎって見えないようにする 所Ⅱされる ところとなる

### 訳

是れを以って以前から、時に或いは我が心を満足させなかった、  
また勢いの行き着くところはすでに気持ちはあった、すなわち父子は  
天然のものだ、これを遮つても